

蔵王山安善寺

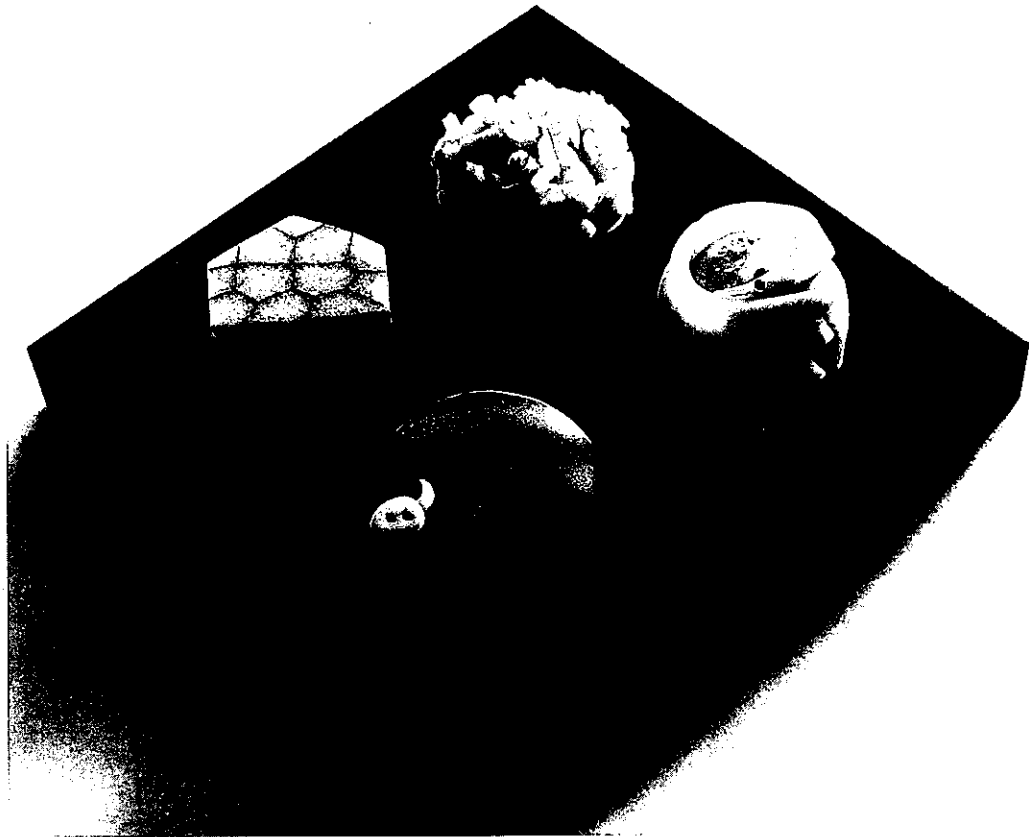
◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋潔・室賀清輝
高橋利春・屋代健・飯泉隆史
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信

後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社



正月和生菓子～「鶴亀～千支猪・お題光」

ご家族の皆さままでご覧ください。

新春

今年も宜しくお願ひ申し上げます

翠巖弘

本年が世界・日本が平和であり、皆様方にとりまして良い年でありますよう祝祷申し上げます。

今年が亥年、私の干支でも早くも七回目の亥年となり、数え七十三歳となりました。過ぎた月日は早いといいますが、昭和六十一年十月に晋山式を

厳修し、安善寺廿七世の住職にさせていただきました。早三十三年目になり、また前任廿六世の三十三回忌を迎えます。

晋山の翌年の十二月に前住が遷化され、暮に本葬儀。平成元年十月に参回忌法要、並びに現副住職真弘の得度式。平成五年、六年の本堂改修、開山・位牌堂、中玄閣の新築、並びに落慶法要。平成十六年十月の中越大震災後の本堂等の修復、客殿

の新築。平成二十四年十一月厳修の開山様の四百五十回忌、七世・十世・十一世・十三世・廿六世様方の先住忌等々と、壇信徒の皆様には大変なご負担、ご協力を戴いてまいりました。感謝の念に堪えません。

昨年、平成三十年の漢字は「災」になりました。地震・豪雨・大風等の自然災害の多発、仮想通貨流出、各界のパワハラなどの人災等によって一位に選ばれたそうです。

第三位に「終」が選ばれましたが「平成」の年号も今年四月に、天皇様の御退位により終わり、皇太子様が新天皇様に御即位されまして、新年号になります。

「終」があれば、「新」が始まりでもあります。私も

今年十月六日に安善寺廿七世住職を退董、「東堂」になります。現副住職の真弘和尚が晋山式を厳修し、安善寺廿八世の住職にさせていただきます予定です。私も住職としては、あと九ヶ月余りとなりませんが、精一杯精進していきたいと思っております。

日本には「お陰様」という美しい言葉があります。古くから「陰」は神仏などの偉大なものの陰で、神仏をはじめ、多くの人達、太陽、地球、万物のお陰をこうむって生かされています。

私も今日迄務めてこられたのも、歴代の住職方のお徳のお陰、並びに関係ある方々のお陰様でした。東堂になった後も住職を支えてまいりたいと存じます。

【日々精進(四十三回)】

「幸」「福」の一年になりますように

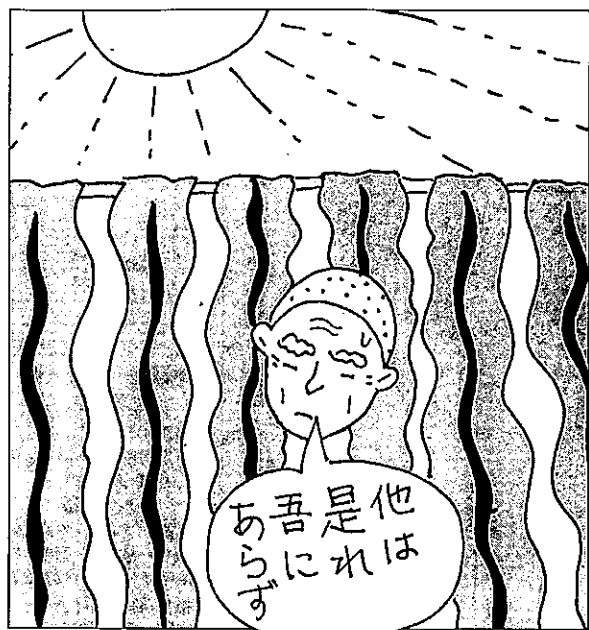
近藤真弘

あけましておめでと
 ございます。本年もよろ
 しくお願い申し上げます。
 今年はすでにご案内の
 如く十月に安善寺の住職
 となるべく晋山結制の大
 行事がございます。檀信
 徒皆様のご協力が無く
 ては成し遂げられない行
 事になります。何卒ご加
 担のほどお願い申し上げ
 ます。

さて、以前からこの紙
 面でもご案内申し上げて
 いました、全国曹洞宗青
 年会製作の映画「典座T
 NZO」も昨年の暮れに
 無事完成いたしました。
 十五分ほどのショートム
 ービーを予定していまし
 たが、完成した映画は六
 十分ほどの中編映画とな
 りました。
 典座(てんざ)というの
 は禅寺に於いて食事を司

る役職の名前でありま
 す。当初は典座というタイ
 ルで調理の風景や食事を
 いただく様子などから命
 を頂く有難さや、命の循
 環をとらえた作品を製作
 するつもりで事業は始ま
 りました。

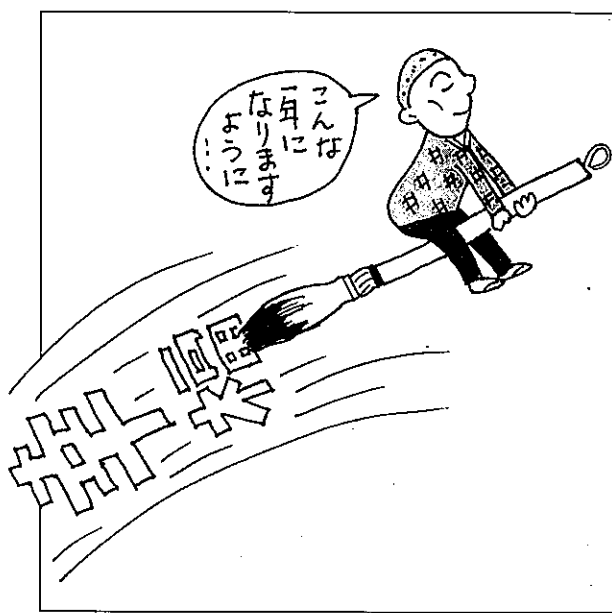
しかし制作を進める中
 で映画として、より厚み
 を出したい、又、道元禪師
 の著された「典座教訓」の
 教えをより広く伝えるこ
 とが出来ないかと、作品
 は曹洞宗の愛知専門尼僧
 堂の堂頭である青山俊董
 老師のお話を主軸に二人
 の青年僧侶が様々な葛藤
 や想いの中、日々を過ご
 している、そんなストー



リーを持ったものに仕上
 がりました。

映画の中では「他は是
 れ吾にあらざる、更に何れ
 の時をか待たん」という
 言葉が物語の核になる言
 葉として使っています。
 これは道元禪師が中国で
 出会った老典座の言葉で
 す。太陽が照つた、とても
 暑い日に老典座が吾を干
 して置いてそれを見た道元
 禪師が「何もあなたの方
 がお年の方がやらずに若
 い方にやつてもらえばよい
 ではないか」という問いに
 対し「他は是れ吾にあらざる
 (他人のしたことは私がし
 たことにはならない)」と
 仰いました。更に道元禪
 師は「太陽がこんなに熱い
 のになぜこんな時にやら
 れるのですか」と尋ねると
 「更に何れの時をか待た
 ん(今この時にしないで

いつやろうというのか)」
 と老典座は答えました。
 このやりとりから、道元
 禪師は典座の役がいかに
 重要なお役なのかを実感
 されました。
 他人ではなく「自分」。い
 つかではなく「今」。これは
 ただ単に典座の教訓とし
 てだけではなく、我々が
 日々生活する中でもすべ
 てのことに当てはまるこ
 とも大切な教えです。
 映画の中でも二人の青
 年僧の気付きとなる言葉



でもあります。映画は今
 年の夏頃には皆様に観て
 いただくことが出来ると
 思います。是非ご覧いた
 だけたら幸いです。
 今年は私にとって本当
 に大切な大事な一年にな
 ります。私自身もこの言
 葉を肝に銘じ一日一日を
 精一杯精進していきたく
 存じます。昨年の暮れの
 今年の漢字は「災」でした。
 今年は是非反対の「幸」「福」
 が選ばれる、そんな一年に
 なることを祈ります。

頭を剃ると雖も無戒にして妄語すれば沙門に非ず、欲貪を具ふるもの如何ぞ沙門ならん。 『法句経』

八十歳を超えての小僧

恩田 善夫

大地には金色に実った稲穂ときれいに咲いた彼岸花・コスモス、天空には赤とんぼが飛び交い黄色の蝶が舞う好季節に、方丈様から仏壇・墓の開眼法要をご懇篤に執り行っていたきました。

このたび、ご縁をいただきまして檀信徒の仲間入りをさせていただきました八十三歳の小僧でございます。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

ここ長岡の地から六十キロほど離れた長野県境に近い妻有の小さな集落墓地から墓を移転させていただきお世話になることに相成りました。

市内高町に住まいいたしておりまして、安善寺様の坐禅会に七年ほど前から参加させていただいております。

子どものころから祖母

が「床」につく前に毎日のように仏様(仏壇)に向かって座り小さな木魚をポンポンと打ち鳴らしながら、ひとしきり何かを唱えている姿を見るにつけ、子ども心に訳も分からずにいっしょか手を合わせていました。お寺様にも、お墓にも連れて行かれる。そんな環境に居て、いっしょか手を合わせる心が心の中に住みついていくような気持ちで育ちました。

静かにじつくりとかみしめておりましたら、五感のすみずみまでが浄化されるように感じました。そして、先祖にこれまでよりさらに深く手を合わせることに、お釈迦様が菩提樹の木の下で坐禅瞑想をされてお悟りをひらかれた「坐禅」。この実践が禅の教えの中心であること。にふと気づきました。曹洞宗では、参禅は「坐

禅なり」と強調され、坐禅の心は一般には無念無想といわれますが、私にはとてもそのような「心の動き」を得るに到りません。しかし、安善寺様の坐禅堂の厳かな雰囲気の中で端座(座る)するだけで、日常の善し悪しなどの心の動きから解かれ心が洗われます。およそ一時間の坐禅が終わりますと方丈様の奥方様がお出しくださる心温まるお茶を頂戴いたします。なんともすばらしい至福のひと時を過ごさせていただけます。

馬齢重ねましたら離れております妻有への墓参は思うに任せない状況になつて参りまして、墓の移転を考えるに到りました。これまで、前述のとおり安善寺様方に大変お世話になつておりましたにもかかわらず、更に重ねて墓の移転・檀信徒としてお世話になることについて「坐禅でご縁を頂いているから」と、厚かましくも何らの迷うもなくお願いした次第でございます。

墓の移転につきまして方丈様には墓地の選定、工事施工関連、法事日程などなど、私どものご迷惑なわがままのすべてをお受けいただきまして心から感謝いたしておるところでございます。

「一族郎党引き連れて」という言葉がございますが、その文言のようにこれからは、二百五十余年前からの先祖ともどもお世話になるわけでございます。移転の意思決定やこれ

に關するいろいろな出来事が、私に「原点に返る」ということを教えてくれました。

大峰奈良真吉野山金峰山山上ヶ岳千日回峰行者塩沼亮潤師は「人生、生涯小僧の心」「師はこの言葉を常に深く掘り下げる日々でありたいと願っている。原点を忘れないことは大事ですが、忘れないだけでなく常に実践・行っているかどうか。実際の生活の中で本当に原点に返っているかどうか、日々が挑戦です。」「はい」と謙虚に元氣な返事をして、勤行に、清掃に励む姿は見ているだけでも清々しいものです。」と書いておられます。

八十三歳の小僧、この教えをしつかりと胸にきざみ日々精進したいと思つております。お世話になります。お世話になります。なんとぞよろしく、お導きいただきたく心からお願ひ申し上げます。

合掌



道元禪師京都祖跡巡拝の旅

新瀨ビーエス観光 飯泉隆史

この度、私は新潟県第一宗務所および護持会が主催いたしました道元禪師の京都祖跡を訪ね、ご参拝と御詠歌をお唱えすることを目的とした二泊三日の「梅花流奉詠大会」および「護持会研修会旅行」にお手伝いをさせて頂いたいただきました。この度の旅行では数ある道元禪師の祖跡の中でも京都を中心に拝登致しました。

出発日の十一月八日。第一主務所管轄各地からバスで出発。総勢九十四名での旅行となり、快晴の中出発致しました。初日目指すは比叡山延暦寺です。比叡山は日本仏教の母山とも称され、道元禪師、法然上人、親鸞聖人、良忍上人、一遍上人、真盛上人、栄西禪師、日蓮聖人などの各宗の祖師が

ここで学び、あるいはここで出家得度しています。ここ比叡山延暦寺の中でも横川と呼ばれる場所に道元禪師の得度霊跡があります。バスの駐車場から霊跡までかなり歩きますので今回は霊跡ではなく、東塔の大講堂にて御詠歌を奉詠し、本堂でもある根本中道を参拝致しました。今晚の宿は山を下り、琵琶湖の湖畔にてお休みいただきました。

二日目。琵琶湖を出発し、京都は宇治に向かいます。宇治には平等院鳳凰堂という有名な御堂がありますが、そこから宇治川を挟んで徒歩十五分ほどのところに道元禪師が開かれた興聖寺というお寺があります。こちらの本堂にてお唱えを致し、堂長様よりお話をいただきました。

した。お寺の参道は、春は桜、秋は紅葉を楽しめる宇治十二景の一つでもあります。宇治を訪れた際はぜひお参りしてみてください。その後、道元禪師誕生の地である京都市伏見区にあるお寺、誕生寺に参りました。境内には道元禪師産湯の井戸などがあります。こちらにも立派な山門と本

堂でありました。そして南禅寺を訪れ、少し遅めの昼食は名物でもある湯豆腐。きれいな庭園を眺めながらの食事は格別のものでした。食後は少し観光。京都の中心にある京都御所を拝見致しました。二〇一九年は天皇陛下が変わり元号が変わる大



変な年になります。御所の見学はそれを踏まえて興味深いものとなりました。やや薄暗くなり、本日最後のお唱えは道元禪師が茶毘に付された地へ。

道元禪師は一二五三年九月二十九日五十四歳でその生涯を閉じられました。茶毘塔は北政所の菩提寺でも有名な高台寺の境内の外れにあります。普段は入ることができませんので他の観光客がいない中、ゆっくりとお参りすることができました。お唱えが終わると辺りは暗くなり、高台寺がライトアップされ、幻想的な一面を見ることができました。

夕食は大徳寺境内にある大寺院内の泉仙にて鉄鉢料理をいただきました。鉄鉢とは僧侶が托鉢の時に用いる鉢で、それを器に見立てていただく精進料理のことです。すべての料理が繊細で目と舌で楽しむことができました。お泊りは浄土真宗西本

願寺の宿坊の聞法会館です。宿坊といっても、ホテル並みの設備で大浴場もあり、ゆっくりと過ごすことができます。京都の夜を楽しむ方もチラホラ。

最終日。ご希望の方は西本願寺の朝のお勤めにのご案内いたしました。ゆつくりと落ち着いた感じのお唱えは独特のものであり、心が落ち着きます。そしてご法話をいただきました。どなたでも気軽に参加することができました。

その後、京都を後にして国宝の彦根城を見学。最後の最後で天守閣の階段の辛いこと辛いこと。とにかく今回の旅行は歩きまわりました。この旅行を通じて、道元禪師の素晴らしい祖跡を一部ではありますが皆様とお参りし、御詠歌をお唱え出来たことは本当にありがたく、素晴らしいものでした。今一度機会がございましたら道元禪師の足跡を巡る旅行をお勧め致します。

父母の老いて生き抜いていく姿から かけがえのないものを学びました

木本きみ子

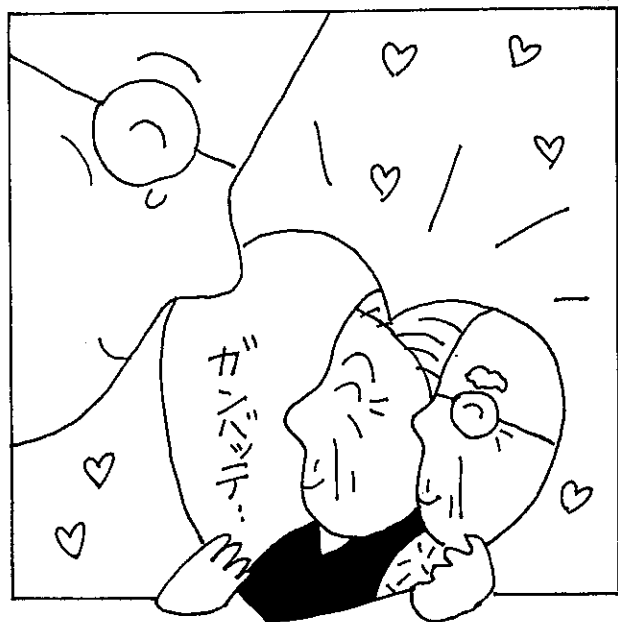


本年九月に母・酒井俊子が、享年百二歳にて永眠いたしました。五年前の七月には父・酒井美与吉が、永眠いたしました。享年百三歳でした。

もしれないと考え、私の仕事の都合もあつて東京へと呼び寄せたのが十一年前のことでした。まずは母が、買い物の上、雪道で転んで怪我をするのを恐れて東京行きを決定し、気がすまなかつた父を説得したのでした。長岡では父は、安善寺

のさまざまなイベントに参加させていただき、それを書き綴っては季刊紙に何度か掲載していただいております。母は写経の会に熱心に参加し、また永平寺への旅などにも連れて行っていただいていた。とても喜んでおりました。親戚やご近所の皆さまにあたたかく寄り添って

いただいた長岡の地から二人を引き離すことについては、私もずいぶん悩みましたが、やむをえないと決断したしだいです。父が逝ってしばらくすると母は、私が誰であるのかはつきりとはわからない状態になりました。「ホームによく訪ねてきてくれる親切な人、昔から知っ



ている長岡の人だったかな」という感覚だったようです。私が「そろそろ帰るからね」と告げると、「汽車で帰るの? いいなあ。私も、長岡に帰りたいなあ」と、いつもうらやましそうに言っておりました。その母も、そして父も、今は長岡の土に還つて、さぞかしホッとしていることと思います。

若い時代に父母の反対を押し切つて大学院に進学し、研究・教育職に就いた私ですが、二人が長らくともに健康でいてくれたからこそ、挫折することなく研究者の道を邁進することができたと心から感謝しているしだいです。また私の仕事・生活空間の近くに二人が来てくれたおかげで、父母の老いて生き抜いていく姿に間近に接することができ、かけがえのない学びの機会を得ることができました。こと、たいへんありがたいことだと思っております。

「KAKA笑の会」 語りと音楽のゆうべ

加瀬由紀子

「語りと音楽のゆうべ」第27回・KAKA笑の会」が、10月27日夜、本堂にて開催されました。

まずは大活躍の4名のプロフィールを紹介しましょう。

「語り」…加藤博久さん。演劇、朗読のスペシャリス

トで、プロデューサーとしても有名なリーダー。県の生涯学習登録指導者。

「篠笛」…高垣千枝さん。

フルート・篠笛奏者として国内各地で演奏活動。

県内の小、中学校で音楽講師を務める他、文化関連施設・教室の講師として指導も。

「ピアノ」…細山田昌子さん。大阪府出身。神戸大・教育学部音楽科卒。第7回バッハコンクール奨励賞、シヨパン国際ピアノコンクールインASIA等、賞歴多数。

「和太鼓」…田村佑介さん。新潟市出身。九歳より「万代太鼓」、十五歳より「飛竜会」に参加。海外での公演多数。万代太鼓団体や篠笛サークルで作曲や指導。

開演は「童神」でにぎやかに篠笛、和太鼓、ピアノの合奏で沖繩の子守唄です。2曲目は、「青葉の笛」。



篠笛をバックに、能でも有名な平家物語の名場面を、加藤さんは、悲哀に満ちた格調高い語りで好評でした。

3曲目は、明るくユーモラスな合奏の「千本桜」。4曲目…「ロンドンデリーの歌」。篠笛とピアノが、ダニーボーイの歌詞で知られる懐かしいアイルランド民謡を演奏。第一部の最後は、加藤さんで落語「てんしき」。医者から「てんしき」があるかと聞かれたお寺の和尚さん。知



ったかぶりをし、てんしきの意味をきいてくるように小僧に頼むのですが…。休憩後の第二部は、田村さんの勇壮な太鼓で開演。この本堂の太鼓は、都内にお住まいの檀家の篤志家からご寄贈いただいた特注品なのですが、「めったに出会えない素晴らしい太鼓」と田村さんが絶賛。腹の底に響く重厚きは迫力満点。

篠笛独奏「笛吹童子幻想曲」。心に染み入る調べに続き、唱歌「もみじ」。出席の皆様全員で合唱。更にしんみりと篠笛の独奏「荒城の月」。朗読「三枚の御札異聞」。恐ろしい「やまんば」との知恵くらべの結末は…。最後のトリは「うさぎ」。アンコールにも応えていただき、お客様の拍手で無事終了いたしました。

副住職 通信

『大本山總持寺に お米を送る運動』の ご報告

昨年の「大本山總持寺に
お米を送る運動」ですが、
安善寺からは一昨年を上
回る十名の方にご協力を
賜り、合計三百二十八キロ
ものお米を頂戴いたしま
した。ご報告を兼ね、御礼



申し上げます。

總和会・嶽山会新潟県
中越支部全体では約四〇
〇名の方から九トンを超
える量のお米が集まり、昨
年十一月二十日に無事、大
本山總持寺にお届けいた
しました。越後のおいしい
お米を戴き、修行僧も益々
修行に精進していること
と思えます。

この運動は来年以降も
継続して行う予定です。ま
たこの紙面やお寺でご案
内をさせていただきます
ので、ご協力を戴けたら幸
甚に存じます。

『落ち葉で焼き芋』 開催のご報告

以前紙面でご案内いた
しました「落ち葉で焼き芋」
ですが、昨年は十一月二
十四日に無事開催いたし
ました。

詳細に日にちを決めて
おらず、当日の天候で急
遽開催を決めたため案内
が行き届かず、可能な範
圍での案内になりました



が、当日は約三十名の方
が集まりました。

子供は幼稚園児や小学
校の低学年の子がほとん
どでしたが、女の子は芋を
ホイールに包むお手伝い、
男の子は落ち葉を運ぶお
手伝いと、それぞれ一生懸
命頑張ってくれました。

連日の雨で濡れた落ち
葉は中々燃えなく、うちわ

で扇ぎ風を送りながらな
んとか落ち葉を燃やし、
芋も無事に焼き上がりま
した。皆さん笑顔で喜ん
でいただき、焼きあがっ
た芋を美味しいと頬張る
子供の姿を見て、こちら
も嬉しくなりました。

来年もまた開催しよう
と思います。大人も子供も
振るってご参加ください。

旅立ち

平成三十年九月(十月末日まで)

中村 宏之様 九月五日寂

東京都江東区

八代 シゲ様 九月十日寂

長岡市宮沢

酒井 俊子様 九月十一日寂

東京都練馬区

小林 功様 九月十七日寂

長岡市千秋

平田 光男様 十月十二日寂

長岡市四郎丸

太刀川 龜吉様 十月十四日寂

川崎市中原区

登坂 透様 十一月十二日寂

新潟市中央区

米山 セツ様 十一月廿五日寂

長岡市住吉

武石 圭祐様 十二月四日寂

長岡市関東町

須佐 忠朗様 十二月六日寂

新潟市

今野 和弘様 十二月八日寂

新潟市

ご冥福をお祈りします。

ボブの独り言

また一年を重ねて...

ボブの独り言

明けましておめでとございます。

今年、住職の干支、イノシシです。一昨年から膝を痛めてしまった住職は、すっかり椅子の生活になってしまいました。

イノシシは十二番目の干支だそうですが、どうして猫は入れてもらえなかったのでしょうか？ 犬は十二支の中に入っているのに...です。でも、最近、マスコミでこんな事を耳にしました。「ペットとして飼うなら犬よりも猫の方が癒される」と思っている人が多いそうです。そんなことを耳にすると嬉しくなってしまう。でもバーバーは、どちらかと言うと、犬の方が好きなようなので「えーそうかな？」って首を傾げ



ていたようです。

そんなバーバーが約二十年前から番犬のために飼いはじめた犬は、今では三代目。その頃は、住職と二人、それも庭にはフエンスすらなくて不用心そのものでしたが、時代がよかったのだ。今では家族も増えたの

ですが、逆に物騒になっ

たのと、犬のいる生活に慣れたのか、玄関のチャイムがなると凄く吠えるので、その声を聞くと身がすくむ思いですけれど、モモちゃんの吠える声は時には役に立っているようです。でもバーバーも年齢を

重ね、「健康のため」と言いながらも日課にしているモモちゃんとボール投げは、時にはしんどそう

で、たくさん雨が降っている時などは、ホツとしているようです。

そこへいくと私は、遊んでもらえる相手がいないくとも、玄関さえ開けてもらえれば、一人で自由に遊んで帰って来ますが、久美さんには健康面の管理から、相当の迷惑をかけているようです。

早いもので、今年、悠真君も一年生になります。喧嘩ばかりしていても、いざという時は真人君がいますからね。心強いことでしょう。ニヤーン

編集 雑感

皆さま、新年あけましておめでとうございます。どうぞございます。

昨年は日本のスポーツ選手が大活躍していただき、私達はたくさん希望を頂きました。

卓球選手が次々と中国選手を破り優勝し、スケート選手ではフィギュアとスピードでもそれぞれ世界新・連覇と入賞等、テニスも男・女共に大活躍、マラソンでも久々に日本新記録と輝いた年であり東京オリンピックが楽しみです。

この結果はアスリートの方々の強い意志と弛まぬ努力の賜物と尊敬致します。

私は今年3月で72歳になります。父親が亡くなったのが65歳だったので、親を超えられれば良いと思っていましたら7回目の亥年を迎えました。

調査士登録から45年、会社を創業して40年が過ぎました。国家公務員を20歳で退職し自分の夢に向かってここまで来ました。その間、一番の思い出は平成27年春、土地家屋調査士業務により黄綬褒章授受の栄に浴しました。5月15日法務省にて章記褒章の伝達を受け、皇居に参内し豊明殿にて天皇陛下に温かい励ましのお言葉まで賜り、感激の極みでございました。

そして昨年1月に社長を退任し会長となり社業の隆盛を願っております。これからは「誠実努力」を社是として、お客様から信頼と感謝をいただけるように努力してまいりますのでどうぞ宜しくお願い致します。 高橋利春

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面を深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のききたりや疑問（編集部や住職が答えします）など。
- 嬉しい・楽しい・嬉しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。